

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

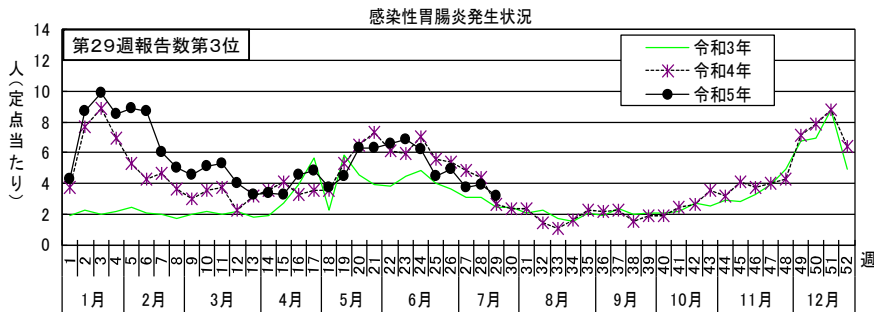
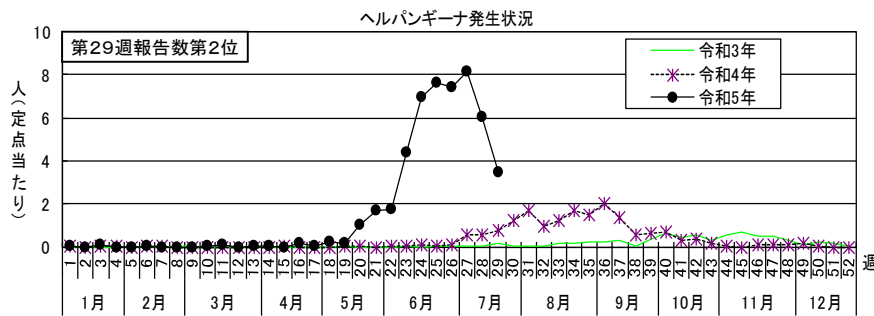
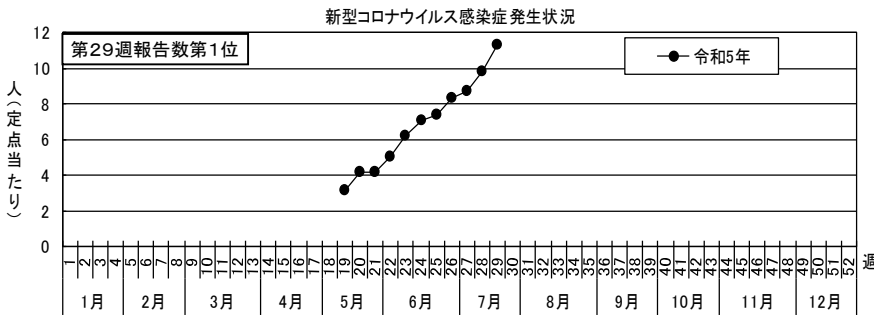
令和5年7月17日（月）～令和5年7月23日（日）〔令和5年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) ヘルパンギーナ 3) 感染性胃腸炎でした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は11.31人と前週（9.79人）から増加しました。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.51人と前週（6.08人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.14人と前週（3.95人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



## ダニ媒介感染症に注意しましょう！

感染症の中には飛沫や接触による感染だけでなく、病原体を保有するダニに咬まれることにより感染する感染症もあります。国内においては日本紅斑熱やつつが虫病、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）等が報告されています。

春から秋にかけては、ダニの活動が盛んになるため、ダニに咬まれる可能性が高くなります。夏休みに山等に行く場合は、長袖・長ズボンを着用し、肌の露出を少なくすることが大切です。また、ダニの付着を完全に防ぐことはできませんが、ディートやイカリジン等のダニに対する虫除け剤もあります。

ダニが付着していることに気が付いた際は、無理にとろうとせず、医療機関で処置をしてもらいましょう。

### ダニから身を守るためには

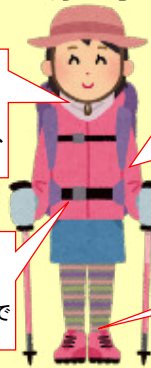
肌の露出を少なくする。  
帽子、手袋を着用し、首にはタオルを巻く。

長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する。  
シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴や靴下の中に入れる。

明るい色の服を着る。  
付着したダニが目視で確認しやすくなる。

足を完全に覆う靴を履く。  
サンダル等は避ける。

屋外活動後は入浴し、咬まれていないか確認する。



### 医療機関受診のポイント

・ダニに咬まれた後、数週間程度は体調変化に注意をし、発熱等の症状がみられた場合は、医療機関を受診する。

・医療機関を受診する際は、以下の3つを医師に伝える。

野外活動の日付    野外活動の場所    発症前の行動



### オズウイルスによる心筋炎と診断された患者の報告について

令和5年6月に国内でオズウイルスによる心筋炎の死亡例が報告され、世界で最初のヒトでの発症例となりました。オズウイルスは、これまでヒトを刺咬するマダニから検出されており、感染マダニの刺咬により感染する可能性が考えられていますが、感染経路について現時点で確立された知見は得られていません。